

「独自の製品を造りたいとの 夢がありました。」



(株)ヒラシマ
代表取締役 平島真治さん

URL <http://www.k-hirashima.jp/>

インタビュアーで事務所を訪れた。カウンターの付近に、目を引く備品類が置かれている。一見無造作に置かれているようだが、一つ一つが実に「シック」に感じられる。

(株)ヒラシマの製品は、都会的で洗練されたデザインが特長だ。「六本木ヒルズ」一階にあるインテリアショップには、(株)ヒラシマの商品が並んでいる。販路は、関東、関西の都会が中心。

デザインの小粋さは、会社発足当初からのものらしい。二〇〇〇年に(株)ヒラシマを起業し、オリジナルの家具製品を作り始めたが、二〇〇一年には山梨の「世界の木クラフト展」に「カーブシエリフ」を出品し、農林水産大臣賞を受賞。その年の秋には、華胥の夢博で入賞している。製品名は、スペーステーブル。二〇〇二年には、「NEJIREMASEN」が、県の産業デザイン協議会生活デザイン部門優秀賞を受けている。昨年からは、外部デザイナーも活用し始めデザインに一層磨きがかかっている。

最も、デザインだけでなく、加工技術も確かだ。実は平島

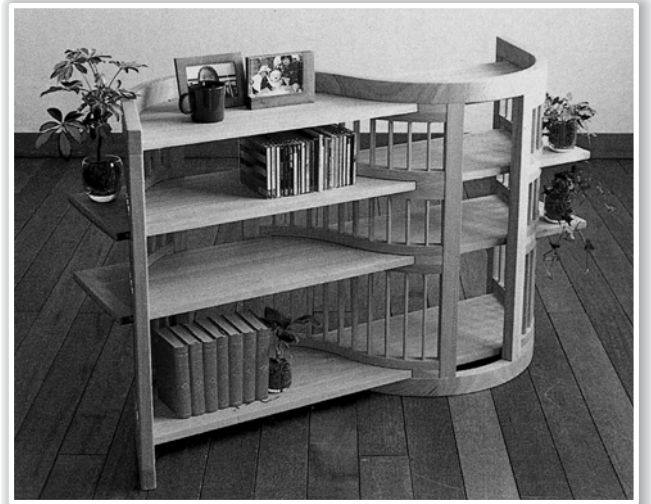
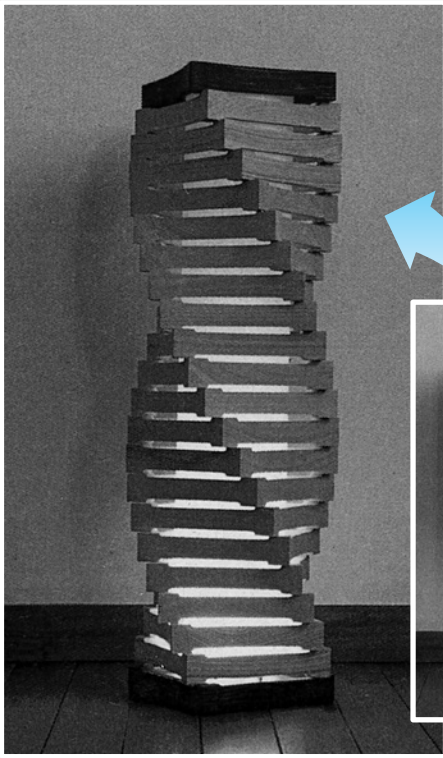


さんは、現在の会社形態にする前、十八年間加工業を営んでいた。

ところで、どうして現在のようないオリジナル製品を造ろうと思いついたのでしょうか。

「景気低迷で受注が少なくなってきたという背景があります。それにもう一つ、加工技術には自信がありました。それを活かした独自の製品を造りたいとの夢がありました。」と平島さんは言う。

デザインと共に、加工技術を活かした製品として、県の産業デザイン協議会生活デザイン部門優秀賞を受けた、「NEJIREMASEN」を挙げる事ができる。これは、ねじることで多様な形と光を演

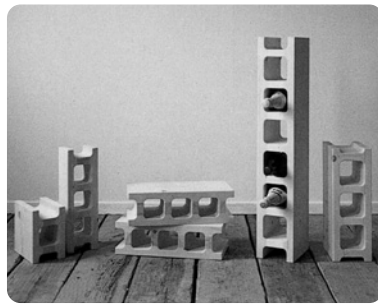


「カーブシェリフ」2001年

世界の木クラフト展農林水産大臣賞受賞

「NEJIREMASEN」2002年

産業デザイン協議会生活デザイン部門優秀賞



出できる照明器具である。そのときの審査講評は、こうなっている。「木のユニットを積み重ねた直方体状の照明器具が、任意にねじることによってさまざまな「ねじれ」の表情を見せる。木のユニットの間から漏れる光の変化も楽しく、実用性よりも場を演出する照明器具のおもしろさが伝わる。木の加工技術を活用した新しいライフスタイルを演出する照明器具である。」

今後の会社展開について、平島さんはこう述べる。「これまでオリジナルの商品を追いかけてきましたが、他の連携にも関心を抱くようになってきました。」
具体的にどついう事だろうか。

「FFC素材を使った『イムウッドグループ』にも参加しています。昨年十二月からは、福岡のデザイン学校と連携しています。若い人たちの発想には、驚かされますし、実に興味深いですね。そして、今は、力を入れているのは、大川商工会議所が主催する「JAPANブランド」です。JAPANブランドにつ

いて、少し何った…。どんな動機で参加を決められたのだろうか。「世界的なデザイナーと組んで、新しい作品作りをすることが、成長のための勉強であり、視野を広げる優れた機会になると思いました。デザイナーから、今までになかった構造を要求され苦勞もありましたが、模索する中で新しいやり方を開発でき、また一つステップアップできたと思います。先日試作品を完成することができました。」

デザイン力、加工技術の点で絶えず進歩を目指す、真摯な姿勢は、企業にとってかけがえのないもの。インタビューでまさにそれが伝わってきた、更なる発展を期待したいと思った。

